

■第2回日本放射光学会功労報賞報告

三國 晃氏 (つくば研究開発支援機構)

足立伸一 (KEK PF)

この度、三國晃さんが、日本放射光学会第28回総会にて、第2回功労報賞を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。推薦者を代表して、三國さんのこれまでのご経歴と業績をご紹介します。

三國さんは、1962年6月に東大物性研サイクロトロン室に入所され、サイクロトロン加速器の運転、維持管理、性能向上、実験装置製作、ユーザー支援を担当されました。その後、1977年10月に田無の東大物性研附属軌道放射物性研究施設に異動され、INS-SOR ビームライン保守管理、ユーザー支援を担当されました。また SOR-RING の加速器系においては、真空、高周波加速空洞、建屋設備(電気、空調、冷却水)を担当し、測定器系では、BL-4 変形ローランド型斜入射分光器(30~400 eV)の立上げ、性能向上に尽力されました。特に気体の吸収実験において、ユーザー、学生の実験支援を行い、三國さんの厳しい指導のおかげで研究成果(卒論、修論、博士論文等)をまとめることができた関係者は数多くいらっしゃると思います。

その後、1983年10月に高エネルギー物理学研究所の放射光実験施設(PF)に異動され、以後21年にわたって

KEKに在職されました。PFでは、10 m 斜入射型分光器の立上げ、ゾーンプレート分光器の立上げ、BL-6 ビームライン建設、民間企業等ビームライン(NTT, 日立, NEC, 富士通, オーストラリア)のコンサルタント窓口、安全管理(電気, 機械)、各種部品のストック管理、業務委託要員の指導と管理など、技術支援業務全般を担当され、KEKの技術部部長としての重責を果たされました。

このような三國さんのご経歴と業績は、そのまま日本の放射光科学発展の歴史と重なります。三國さんは1962年以来、40年余りにわたって、東京大学物性研究所のSOR-RING、フォトンファクトリーにおいて、数々の技術支援を行い、放射光科学の発展に大きく貢献されました。また三國さんは、施設技術者の立場で優れた技術開発を行うとともに、多くの後進の技術者を育成され、今日の放射光科学の発展の重要な礎を築かれました。この度の受賞を心よりお慶びするとともに、今後とも全国の放射光施設に在籍するスタッフを温かく叱咤激励していただきたいと存じます。

この度は、誠にありがとうございました。